

お お ぞ ら

No.173

聖隷福祉事業団への法人移管後は56号

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
総合病院 聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター

〒433-8558
静岡県浜松市北区三方原町3453
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功
編集者 横地健治

2016年4月1日

重症心身障害成人の活動

横地 健治

重症心身障害の中では、有意な言語理解のない人(横地分類の「A」)が大半です。その発達段階は、1歳未満の健常児(乳児)と対応しているとみなされます。よって、こうした人たちが生きがいを感じる活動は、成人でも、健常児の遊びと関連していることとなります。それでも、有意な言語理解のない重症心身障害成人の活動と健常児の遊び(活動)が、全く同じではないはずはありません。どの点が同じであり、どの点が違うのかは知らねばなりません。

まず、両者の同じ点は、その知的機能(知能)の側面でしょう。知能は精神機能全体の中で大きな部分を占めるものであり、その一部を抜き出すと、有意な言語理解のない重症心身障害成人と健常児は同じということです。抜き出された代表的なものは、ごく簡単な言葉を聞いても意味がわからないということ、できることの差異は一般児といっても、新生児期から11ヵ月まで及びます。この両

者が同じ知的発達段階にあるはずはありません。健常児では、新生児期から1歳に至るまでに、日常生活の中でやることは増えてきます。それでも、どうわかり、それをどうとどう判断して、何をやるうとして、その行動になったかはよくわかりません。こうした心の中の動きこそが知能の中身であり、この乳児期の発達の变化はまだ闇の中と言っている世界です。これに関連する実際の事例を挙げれば、10ヵ月の子が楽しむ玩具は、3ヵ月の子にとっては興味を引かないだだの置物でしかないはず、逆もまたしかりです。知的発達段階にぴったり合った遊び(活動)でなければ、乳児の関心も引かないし、取り組みもしないはず、

これと同じことは、有意な言語理解のない重症心身障害成人にも言えます。その知的機能に合った活動でなければ、本人の興味関心は引き出せないはず、このように、重症心身障害成人の知的機能レベルの判定は、最適な活動の提供には不可欠なことです。この時、してはいけないこと

は、健常児の知的発達段階との安易な同一化です。知能は多くの認知機能の集合の上に乗る総合的なものです。知能の低位にある認知機能の低下している組み合わせは、正常発達の未発達である状態と脳障害により機能が低下した状態では、違はずです。脳障害の場合では、知能の低位領域が均一に侵されることはないと考えられるからです。

次に、興味関心を引くものの差異は、その人の知的機能以外の多くの要因によってもたらされると思われます。健常成人ならば、その人の生きてきた地域の文化や環境に大きく影響されるでしょう。健

常児でも地域や時代の影響がないとは言えません。自分の周りがある育児用品は違うし、見聞きして経験するものも違っています。幼児期になると性による嗜好の違いは明確になってきます。男の子は車が好きで、女の子はピンクの服を着たかわいい人形が好きになります。その前の乳児期にも嗜好の性差は芽生えているかもしれません。年齢による差異もあります。日本の幼児はたいていアンパンマンが好きです。それより前でも後でも、これほど好きではないようです。脳の成熟段階が

嗜好に影響するということ、

有意な言語理解のない重症心身障害成人で知的機能以外のどんな要因が、興味関心を引くものの差異につながるのでしょうか。前述の性差や年齢は無視できないと思います。もし、これらが無視できるとしても、個の尊厳には抵触します。一般的に女児が好むとされているものを、男性に提供するのは問題です。また、一般的に乳児が好むとされているものを成人に提供するのと同じ問題は、「子ども扱い」という言葉は、侮蔑的な意味を持つので、これは避けるべきです。

それ以上に問題なのは、成人に至るまでの人生経験が影響している可能性です。有意な言語理解は獲得できなくても、見聞きしたこと、触れたこと、経験が学習され、興味関心を持つ内容が発展しているかもしれない。長い人生を送って、人との関わりの中の多くの経験を積んでいるはず、人への興味関心は深いのではないかと私は思っています。このように考えて、有意な言語理解のない重症心身障害成人には、乳児とは違う独自の活動を提供しなければならぬと考えています。